



ちよつと CHAT

第22号改訂版 2006年10月発行

アレルギーを考える母の会

代表：園部 まり子

E-mail: s_sonobe@cf6.so-net.ne.jp

NPO 日本アレルギー友の会

ぜん息・アトピー性皮膚炎講演とQ&A 「治療の最前線と日常管理を学ぶ」



10月22日(日) 12:30~16:00 無料

東医健保会館 (東京・JR 信濃町駅徒歩4分)

■講師■「小児ぜん息」群馬県立県民健康科学大学看護学部講師 益子育代先生／「アトピー性皮膚炎」東京慈恵医科大学皮膚科教室教授 中川秀己先生／「ぜん息」帝京大学医学部附属溝口病院第四内科教授 滝澤始先生

■問合せ■NPO 法人日本アレルギー友の会 Tel:03-3634-0865 (11時~16時 10/15までは火曜日と木曜日のみ。10/16~21は毎日受付) 〒135-0002 東京都江東区住吉 2-6-5 インテグレート村上 3F Eメール: j-allergy@nifty.com

東京都・独立行政法人環境再生保全機構 平成18年度ぜん息予防講演会

「こどものアレルギーを正しく知ろう」

～ぜん息と食物アレルギーの治療と日常生活の過ごし方～

11月6日(月) 13:30~16:00 無料

全国町村会館ホール (東京・永田町1分、「赤坂見附」5分)

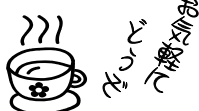
■講師■国立成育医療センター第一専門診療部 アレルギー科 大矢 幸弘 先生

■申込み■10月30日までに「ぜん息予防講演会事務局係」宛。定員300名、定員になり次第締切り。氏名・住所・電話番号・参加人数・保育希望の有無、先生に対する質問も記入。1歳~6歳児までの保育を希望の方は事前申し込み先着20名まで。
[ハガキ]〒105-0003 東京都港区西新橋 2-16-2 桜井ビル 3F(水と緑の惑星保全機構内) [FAX] ホームページに申し込みフォームあり。FAX:0120-334-542 [電話] TEL:0120-334-064
[Eメール] zensoku-t@mizumidori.jp [ホームページ] 環境再生保全機構ぜん息などの情報館 <http://www.erca.go.jp/asthma2/event/lecture.html> 都福祉保健局 <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kanho/>

患者交流会「ちよつと chat の会」

かながわ県民センター15F 相談室①(横浜駅西口徒歩5分)

- 来所相談■毎月第4火曜 10:00~12:30
- FAX相談■045-312-6307 (相談室)
- 問合せ■Tel:045-312-1121・内線 3501



セミナー情報

「増加する食物アレルギー」

～子どもたちをアレルギー症状から守るために～

11月11日(土) 10:00~12:00 無料

私立おおつな保育園 (港北区大曽根 2-33-8 東横線 綱島駅 徒歩12分)

■講師■国立成育医療センター総合診療部

医長 教育研修部長 赤澤 晃 先生

■対象■園の保護者、および一般市民も。

■問合せ■おおつな保育園・木村 TEL:045-531-0501

旭福祉保健センター・平成18年度アレルギー講演会

「アレルギーってなあに？」

知っておきたい 食物アレルギー最新情報

11月14日(火) 13:30~15:30

旭区役所新館 1F 大会議室 無料

(旭区鶴ヶ峰 1-4-12 相鉄線「鶴ヶ峰駅」徒歩7分)

■講師■独立行政法人国立病院機構 相模原病院

小児科 田知本 寛先生

■申込み■10/16から電話で。先着80名まで。区こども家庭支援担当 Tel(045)954-6150 原則2歳以上の未就学児対象の一時託児あり(事前申し込み先着21人)

国立病院機構相模原病院アレルギーの会

第27回アレルギー・喘息講演会

11月18日(土) 12:30~16:30 無料

神奈川県障害者職業能力開発校(相模原病院北裏)

■講師■「成人喘息」谷口正実先生／「小児喘息及び両親教育」海老澤元宏先生／「アトピー性皮膚炎」朝比奈昭彦先生／「質問の回答」秋山一男先生／「アレルギー110番」(個人と先生との相談)(12:00よりクスリについての個人相談あり※薬持参)

■申込み■住所・氏名・電話番号・出席人数・質問事項を記入の上、11/11までに往復ハガキで。(メールは16日まで受付。件名に「講演会申し込み」を明記 allergy-net@jcom.home.ne.jp) 〒228-0815 相模原市桜台 18-1 国立病院機構相模原病院内 国立病院機構相模原病院アレルギーの会 問合せ: 岩瀬 0465-47-2348 <http://allergy-net.web.infoseek.co.jp/kanja/>

赤澤 晃先生の「小児のぜん息・アレルギー講座」から ちよつと紹介

ぜん息のコントロールは大丈夫？

ぜん息といってもいろいろです？



◆2006年9月2日アレルギーを考える母の会・神奈川県社会福祉協議会神奈川ボランティアセンター 共催
◆赤澤 晃 先生: 国立成育医療センター総合診療部 小児期診療科医長 教育・研修部長併任

○よい ↑ ↓ ×悪い

1. 1~2ヶ月に1回、受診して吸入ステロイドだけ使用して発作はない。普段はぜん息日誌をつけピークフローを測定し、頓服薬をいつも携帯している。
2. 普段は治療薬は無いけれど、運動の前にインターナル吸入薬を使用している。頓服薬をいつも携帯している。
3. テオドールを内服しているが、カゼをひくと発作をおこして休んでしまう。
4. 普段発作はないが、運動会、移動教室で発作をおこしてしまう。
5. 秋には、毎年ぜん息発作で1度は入院する。
6. 運動をするとすぐ発作をおこすので、体育はたいてい休んでいる。
7. テオドールを内服しているが週末になると発作をおこしている。
8. 月に1~2回発作があるがその時だけテオドールを内服しホクナリンテープを貼っている。
9. 発作がおきるとすぐに救急センターを受診している。

ぜん息の治療

1. 発作を止める(急性期の治療)

【発作に備えて…】

- ①発作時頓服薬の常時携行
- ②対応フローチャートの作成

【発作がおきたら】

- ①発作の程度を把握⇒小発作、中発作、大発作、呼吸不全
- ②発作の原因を見つける⇒感染、感動、ダニやホコリ、天候、煙や冷氣等の刺激、ストレスなど
- ③環境の改善
- ④頓服薬の使用
- ⑤医療機関の受診

2. 発作をおこさないようにする

慢性炎症をおさえる(非発作時の治療)
長期管理薬、呼吸機能の測定、環境整備